

商業科「 会計特講 」授業実践紹介

授業者：安東 真美

学 年：3年

単元名：財務諸表分析 ～実際の財務諸表を分析しよう～

単元のねらい

- ◆ 既習の財務諸表分析の方法が正しく活用できる
- ◆ 英語表記に慣れ親しむ

単元の流れ

1. グループで興味のある業種（今回は菓子メーカー）の企業を複数社挙げ、資本金、総資産、売上高、従業員数をインターネットで調べて比較する その中から同じ規模の企業を1人1社担当する
2. インターネットから日本語版と英語版の「財務諸表」（企業の財政状態や経営成績の報告書）を入手し、個人で「財務諸表分析」（財務諸表を用いて収益性や安全性などを分析すること）を行う 担当した企業の分析結果を他者に伝えて情報共有する
3. 情報共有した分析結果に基づく評価を個人でレポートにまとめ、グループで分析報告会を行う



企業規模調べ

	Previous year (As of Mar 31, 2017)	Current year (As of Mar 31, 2018)
Assets 資産		
Current assets 流動		
Cash and deposits	23,961	23,559
Notes and accounts receivable - trade	28,600	41,749
Securities	28,999	22,998
Inventories	9,895	10,748
Deferred tax assets	2,593	2,576
Other	3,868	5,323
Allowance for doubtful accounts	-33	-23
Total current assets	97,884	106,933

英語版の財務諸表

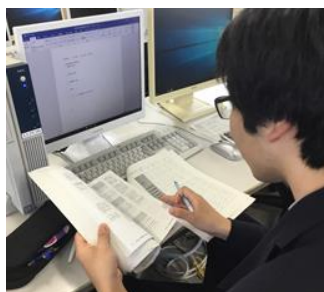
財務諸表分析

財務諸表分析のワークシート

総資産当期純利益率 (ROA) ◦
株主資本当期純利益率 (ROE) ◦
総資産経常利益率 ◦
使用資産経常利益率 ◦
営業資産営業利益率 ◦
総資産回転率 (総収益対総資産) ◦
営業資産回転率 (売上高対営業資産) ◦
固定資産回転率 (総収益対固定資産) ◦
配当性向 ◦

B/S
平
均
P/L
収益性

担当企業の分析



企業間比較のレポート作成



単元のループリック

	A	B	C
I 関心・意欲・態度	英語の財務諸表に興味を持ち、意味を調べて活用した。	英語の財務諸表の活用ができた。	英語の財務諸表の活用ができなかった。
II 思考・判断・表現	企業間比較ができ、自分の考えを論理的にまとめた。	企業間比較ができ、自分の考えをまとめた。	企業間比較ができず、自分の考えをまとめられなかった。
III 技能	財務諸表分析を正確に行い、分析結果をわかりやすく他者に伝えた。	財務諸表分析を正確に行い、分析結果を他者に伝えた。	財務諸表分析を正確に行えなかった。

単元を通して身につけてほしいこと

1. 情報活用能力
2. 正確性
3. 思考力・判断力

インターネットから入手した実際の財務諸表の情報を正しくとらえ、これまでに学習した財務諸表分析の各指標に基づき正しく計算し、その結果をもとに、企業価値を評価する力を身につけてほしい。

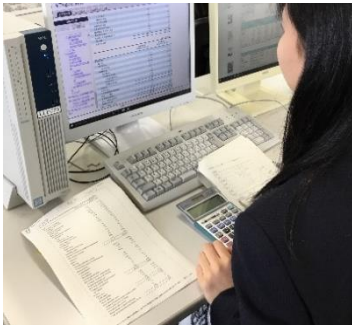
実践の背景

- 1・2年次に学んだ簿記や財務会計の知識をベースに、テキストを使って財務諸表分析の方法を学び、10月に全商会計実務検定（財務諸表分析）を受験した。検定終了後、各自が関心のある企業の実際の財務諸表を使った分析を行い、企業会計や株式投資により興味を持たせることにした。
- 次期学習指導要領では「基本的な会計用語については、英語表記に慣れ親しむことができるように留意して指導すること」と記載されている。経済のグローバル化が進んでいることにより、基本的な会計用語の英語表記を適宜取り上げるなどの指導をすることが必要とされるため、会計用語の英語表記を用いた財務諸表の活用についても指導した。

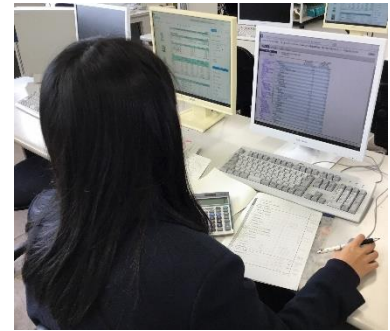
授業改善のアプローチ

- これまではグループで協力して分析を行うことがあったが、今回は1人1社の分析を行うことで、個々に役割（責任）を持たせた。全体で情報を共有する場面では、個人の分析では自信のないところを、他者の分析方法と比較・確認して、相互に助け合いながらまとめていった。
3学期の総まとめとしては、1人が数社の分析を行い、個人の力で報告書をまとめることができるようにする。

単元のヤマ場となる授業場面



英語版財務諸表を用いて財務諸表分析をする。日本語版財務諸表を画面表示して、英語版と比較しながら分析を進めた。
* 日本語版 EDINET より
* 英語版 <https://www.kaijinet.com/jpExpress/> より



パフォーマンス課題と評価

あなたが勤めている金融機関に外国人のお客様がいらっしゃいました。英語版の財務諸表を提示して、できるだけわかりやすく財務諸表分析の結果を説明しましょう。

評価物：ワークシート3枚、レポート（A4、1枚）

会計特講 パフォーマンス課題 ワークシート① 企業規模を比べよう

企業名	資本金	総資産	売上高	従業員数	企業規模

(ワークシートの一部分)

会計特講 パフォーマンス課題 ワークシート② 財務諸表分析をしよう

基本情報	
企業名	
英語名	
代表取締役	
企業理念	
設立年	
事業拠点	
事業内容	

財務諸表分析

B/S 貸 借 均 衡 表 P/L	総資産当期純利益率 (ROA)	
	株主資本当期純利益率 (ROE)	

会計特講 パフォーマンス課題 ワークシート③ 分析データをまとめよう

	企業名	企業名	企業名	企業名
ROA				
ROE				
配当性向				
EPS				
総収益当期純利益率				
売上高売上総利益率				
売上高売上総比率				
売上高営業利益率				
売上高販内費および一般管理費率				
流動比率				
当座比率				

生徒の変容

- 今回は生徒が相談して菓子メーカーの財務諸表を比較することになったが、生徒の興味のある企業が題材になったため、分析も普段より意欲的にできていた。
- インターネットから情報を入手する際、金融機関など業種によってはテキストでは学んでいない財務諸表の内容があり、戸惑うことがあったが、その違いに気づき、自ら判断して情報を入手することができた。
- 英語の財務諸表に初めて触れることになったが、普段から見慣れている日本語の財務諸表と対応させることで、会計用語の英語表現にも慣れ親しむことができた。